

◆通所介護ナイス・デイ◆訪問介護ナイス・ケア◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら

**S-O-S vol. 174通信**  
H27年2月11日発行

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス  
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036  
代表TEL：(0567) 26-3921  
FAX：(0567) 26-3922  
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

《2月予定》

- 3日 節分
- 10日 外食DAY
- 20日 避難訓練
- 23日 誕生日会
- 25日 小規模多機能型居宅介護事業所実地調査

《不定期行事》

天気や意欲等で状況判断し、外出先一覧を参考に社会生活に参加します。

《利用状況案内板 (☆募集中 ★満員)》

☆ナイス・ケア

☆ナイス・デイ (定員 10名/日)

日	月	火	水	木	金	土
6	8	6	7	8	6	6

☆ナイス・ホーム(登録者 19名/定員 21名)

☆愛宕の家(入居者 15名/定員 17名)

☆つしま紹介所 ☆ナイス・キッズ

★打太鼓

～上記を参考にご利用下さい～

新たな風/打太鼓

打太鼓の大人(中学生以上)のメンバーは5人。その内1人は休憩中だったが今年1月から完全復活となり、また、新たに中学生が1名加わった。

1人の復帰と1人の新メンバーで雰囲気が変わり他のメンバーの気持ちも変わる。「負けないようにがんばろう」「一緒に上手になろう」新たな気持ちでシャキッとします。

今年のお初披露目は1月4日の気まぐれ市。寒いかと思ったが結構暖かくバチを持つ手も震えなかった。中学生の新メンバーはこの2日間は見学。でもその瞳の奥にはメラメラと闘志がみなぎる。

『子供の時間と大人の時間とダブルで頑張っ、皆に追いつけ追い越せ。俺、センターで叩きたい』そんな風に言っていた。

そんな言葉を聞いたら他のメンバーもボヤッとしてられない。次のお披露目には曲を覚えて太鼓を叩く勢いだ!!初お披露目をお楽しみに♪(K/N)



水を得た魚?/ナイス・デイ

入院でデイ利用を休まれていた方々が回復して再びデイ利用を開始された。12月はSさん。2月にIさん。2人とも入院前より元気!



久しぶりに他の利用者さんやスタッフと顔を合わせたSさんとIさんは共に満面の笑み。次から次へと会話が弾み、まるで水を得た魚のよう♪

再会を待ちわびていた他の利用者さんやスタッフの気持ちが2人に伝わったようにも見える。一緒にお風呂に入り、お茶を飲み食事をする。一緒に体操やゲームもする。話に花が咲いているかと思えば、時には口論になることもある。デイ利用を休んでいたとは思えない雰囲気だ。利用者さんとスタッフ。利用者さんと利用者さん。それぞれの関わりが深くなる。嬉しい、悲しい、腹が立つ、楽しい…。喜怒哀楽、表情と表現豊かに人間らしい付き合いが出来ている。一人で過ごしては味わえない感情を味わえる。

好きも嫌いも関係なく全員の顔が見える関係。これぞ定員10名ならではの醍醐味だと感じるのだが…。介護保険法改正後、1年の猶予はあるものの定員10名のデイは中規模か大規模に変革するかもしれない。(消滅か??)小規模通所介護の行く末に頭を悩ませる。(M/O)

誇り高い人生/愛宕の家

昨年、年の瀬も押し寄せたころ、Iさんが亡くなりました。

もともと肺に持病があり、在宅酸素はしていたが、それ以外には特に悪いところも無く、入居者さんのほとんどが毎日多くのお薬を飲んでいる中、定期的なお薬は無い方だった。

繊維関係のお仕事をされていて、その頃の話をよくされていた。「大阪は船場、東京は日本橋…云々かんぬん…」とお決まりの文句から始まる昔話はとても誇らしげで、生き生きと仕事をしてきた様が手に取れるようだった。人に触られる事が嫌で、お世話されることを拒否されることも度々。「触ってくれるな!!」「帰ってけ!!」…。



でも、の中でふと、「悪いなあ、ありがとうなあ。」などの言葉を口にされる時があった。こういう言葉があるから頑張れるというスタッフもいた。普段は寡黙だが、優しくユーモアもある方だった。ご冥福をお祈りします。(K/T)

家政婦の活用/つしま紹介所

「独居の姉の様子心配。介護保険の訪問介護を利用しているが、様子を見に行っしてほしい…」と遠方に住む家族から家政婦利用の相談があった。

訪問介護を利用しているのに心配?担当ケアマネがいるのに家族からの依頼?一応、筋道を通すべく担当ケアマネへ連絡を取り終息したかと思いきや、『どうにもならない。とにかく家政婦さんを頼みたい』と改めて連絡が入る。やはり家政婦利用の希望だ。

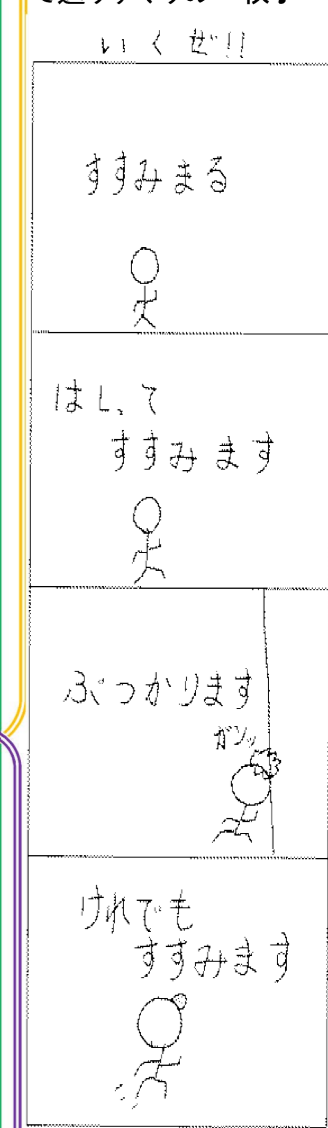
詳しく話を伺うと、数日前に転倒。現在の介護度による介護サービス量では足りないのだと。介護保険の訪問介護はできることや時間数が限られていて困る!足りない!家政婦利用は本人も望んでいるし、ケアマネにも了解を取った。』と個人からの明確な直接依頼。家族は全ての状況を適切に把握していた…。

介護保険が始まって以来、一般的に介護保険で利用するサービスは浸透しつつある。しかし、その一方、昔からある家政婦紹介は、たま～に紙面に掲載されることもあるが、市原悦子さんの“家政婦は見た”的な印象も強く残っているのか、“介護に家政婦利用を!”と考える人は多くはないのかもしれない。

家政婦利用は制約も少なく時間料金も比較的安価に抑えられている。こんなに便利な制度があるのに居宅事業所等からの相談依頼は意外と少なく、家族が困って探し当てた…という方が多い。もっと家政婦の活用を検討してみしてほしい。もしかしたらもう少し安楽な在宅介護ライフに変わるかも?

現在、この方は24時間泊り込みという形態で家政婦を利用中。在宅生活の方でも施設入所中の方でも冠婚葬祭時や利美容・受診時等に短時間利用の相談も可能です。介護保険利用で困ったときには是非ご利用下さい。(A/I)

小学1~5年生KIDが4コマ漫画を描き、その中で選りすぐりの一枚♪



苦い後味/ナイス・ホーム

Kさん。本当はもっとすっきりとした気持ちで「ナイス・ホームを利用して下さってありがとうございました。」と挨拶したかった。

嚥下困難で食事摂取が難しく24時間点滴。自力で排尿できないから尿道カテーテル留置。寝たきりの生活。点滴交換・尿の処理など介護全般は奥様の担当。

ホームへ登録されたのは去年の3月18日の退院時だった。ホーム登録期間中も発熱などで入院も頻繁だった。退院される度に施設入所を検討したが、本人も家族も在宅生活を希望されていた。12月の退院時には、家族は自宅での看取り覚悟もした。

訪問診療週2回。訪問看護週1回。ホーム登録以降、通いを利用できた時期もあるが、体調不良時は全て訪問対応へ切り替え、緊急時も含めて臨機応変に対応していた。

12月の退院時、見取りを視野に入れ主治医をホーム提携医へ変更してはどうかと提案した。本人の意思確認は難しかったので家族への提案。答えは『よろしくお願ひします。』

しかし…。私の把握・伝達・連携などの全てが不足していた。右往左往し、家族や各関係者の方々の足止めや手間を掛けさせた上に、気付いたら主治医との関係もぐちゃぐちゃにしてしまいそうだった。…。ホーム提携医への移行は消滅した。

その後、様々な事情が重なり在宅介護が続けられない状況になった。私が負の連鎖の引き金を引いてしまったかも…。と思えるような経過だ。奥様は「皆さんに良くしてもらえてよかった。ありがとうね。」と言われたが、自分の力量不足が情けなかった。Kさんの看取りを覚悟した家族やホーム職員、各関係者の方々と共に最後まで関わられなかった悔しさが残る。(Y/O)

夫婦/ナイス・ケア

5ヶ月前、骨折のため入院した夫…。夫の不在に対して普段から世話見のいい妻は、『羽を伸ばしてのんびり自由気ままに過ごそう♪♪』とちょっと嬉しそうに話していた。

ところが…。1ヶ月、2ヶ月経つうちに妻の表情はだんだん乏しくなり体調も優れなくなってきた。いつも当然のように目の前にいて手を焼いていた夫の不在はラッキーだったはずでは??

傍目に見ていても妻の劇的な変化の様子には担当者が皆、心配していた。そして先月、やっと(?)夫が退院してきた。4ヶ月ぶり。自宅へ戻って来るや否や、世話焼き妻の復活!!

なんと!!みるみる内に元気を取り戻して。『大変、大変…。』とボヤきながらも、世話を焼いている。60年以上連れ添った夫婦の空気感をしみじみと思い知らされる。夫・妻それぞれの役割があり、どちらが欠けても心身共に影響は大きいと改めて思った瞬間だった。この夫婦が、今後もお互いを支えあいながら心身共に気持ち良い生活を続けられるような関わりを続けたいと思います♪(R/W)

《編集後記》 1月13日、ナイス・ケア、ナイス・デイ、ナイス・ホーム、3事業所の情報公表調査を受けました。

この調査は、事前提出するアンケート項目があります。その質問に○付けした項目の書類的(?)根拠を確認されるもの。調査では、「提示されたものが適当か否かを判断します。それ以上でもそれ以下でもありません。」というような説明を受けました。提示した根拠書類に対して「この表現では適当と言えない。」と文言の指摘をされました。その際、「これでは?」と別の書類を提示すると「これならOKです。」と返答が返ってきます。今までにも何度か調査を受けていますが、「なぜ適切ではないのか?文言は違えども意味合いは一緒じゃないのか?日常的に活用するにはこの言葉を使うのだけどなあ…。」と悩んでしまうことも多々。私としては、日々の業務で生かしやすい言葉にしておかなければ価値半減だと思ってしまふ。調査のためだけの書類作成なんて時間の無駄なことはしたくない。日々活用できる根拠書類にするにはもっといろいろ聞きたいけどなあ…。(Y/O)